



2030年ビジョン

県民のより多くの世帯に対し、食と福祉と助け合いの『暮らしのトータルケア事業』に取り組み、切れ目なく提供し「住み慣れた地域で、安心して元気に暮らし続けられる」地域社会づくりをめざし、組合員と役職員、地域とも協力・協働し挑戦します。



ビジョンフレーズ

地域（みんな）でつくる、とやまの未来

心豊かなくらしづくりと持続可能な社会的 事業※1を確立します。

1. 宅配事業のリノベーション※2を実現し、「トータルケア事業」の基盤をゆるぎないものにします。
2. 「くらしの協同センター」としてふだんの暮らしに欠かせない店舗事業再構築をすすめます。
3. 高齢者・障害者・子育てのニーズに対応した事業を軌道にのせ、更なる支援事業を展開します。
4. 食の安全とエシカル消費を大切に進めます。
5. AI※3など最先端技術を取り入れ、利用しやすい仕組みづくりと高い生産性を実現します。
6. 再生可能エネルギー※4や食糧問題※5に対応できる新たな事業に挑戦します。



(※1)事業と社会貢献を別に考えるのではなく、事業そのものが社会の発展に貢献する事業

(※2)手を加えてよくすること、革新・新生

(※3)人工知能

(※4)温室効果ガスを排出せず、エネルギー安全保障にも寄与できる低炭素の国産エネルギー

(※5)食糧不足や食品ロス問題、持続可能な農業づくり



倫理的価値※6を大切にする地域社会を創ります。

1. 3R※7活動を進め、プラごみゼロを推進し、食品ロスを削減します。
2. 組合員一人ひとりの関心に基づき、くらしや地域を元気にする活動を広げます。
3. 社会的に弱い立場に置かれた人たちを協同の力で支え、地域福祉の担い手として役割発揮します。
4. 災害にも強く復元力があり、安心してくらし続けられる地域社会づくりに貢献します。
5. 人権を尊重し、平和で校正かつ包摂的な社会づくりを進めます。

(※6)正直、公開、社会的責任、他人への配慮を倫理的価値とします。(協同組合の価値より)

(※7)リデュース:減らす(reduce)、リユース:繰り返し使う(reuse)、リサイクル:再資源化する(recycle)の3つの(R)の総称

だれもが生きがいを持ち互いに助けあう 地域社会ネットワークづくりを推進します。

1. 誰もが気軽に立ち寄れて、出会い、つながれる居場所や拠点づくりをすすめます。
2. 地域の諸団体・NPO※8、協同組合、行政と共に共生社会づくりを進め、地域の課題解決に取り組みます。
3. 地球温暖化対策を進め、再生可能なエネルギーの利用・普及・開発を進めます。
4. 県民の過半数以上の加入を実現し、「助け合いの組織」生協の輪を地域に広げます。
5. 助け合いの精神に基づき、特に最も貧しく、弱い立場におかれた人々のニーズを大切にして、さまざまな人との連携づくりを進めます。



(※8) (民間の) 営利を目的とせず
社会的活動を行う団体



(※9) 性別に関係なく、自信の人生を決定し築く権利を持ち参加できること

(※10) 多様な人財を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供すること

(※11) 法律遵守に加えて、人権・国際行動規範を尊重し、社会的存在として説明責任を果たし、透明性のある経営

組合員と職員が、地域社会で共に成長し続ける組織を確立します。

1. 組合員一人ひとりの自主・自発性を大切にして、民主的な組織運営を確立します。
2. 職員一人ひとりの豊かな人生の実現に向けて、生き生きと働く幸せを感じる職場を創ります。
3. 対話を重視し、協働で効果的で健全、且つ自己革新力を高められる組織を創ります。
4. ジェンダー平等※9を推進し、ダイバシティ経営※10を進めます。
5. 地区本部制のもと社会的責任経営※11を確立して、新たな事業・活動に挑戦し続けます。